

## 第7次鹿角市総合計画前期基本計画住民説明会における主な意見等

<尾去沢地区>

日 時：令和3年3月16日 18時30分～

場 所：尾去沢市民センター

### ○主な意見

意見・質疑等	応答
<p>先を見通した計画なので、成果が表れるのを期待したいが、そのためには、現在の小中高校生への意識づけが大切だと思う。計画を進めるためには、重点ポイントを絞って、確実に達成していくことが大切だと思う。</p>	<p>今回の計画策定に当たっては、市内中高生全員を対象としたアンケート、各中学校及び高校の代表者によるかづの未来の若者会議で積極的にまちづくりに関わってもらった。その意見を計画に反映する一つの取組みとして、今年度、武蔵野大学と協定を締結し、鹿角全体を大学キャンパスに見立てて、大学生と市内中高生と一緒に調査研究活動を行うことを計画している。若者の力を融合させて、新しい鹿角を作っていきたい。</p> <p>特に鹿角で力を入れていく重点ポイントは、5つの基本戦略と3つの経営戦略に整理している。</p>
<p>人口減少、高齢化は日本全国に共通するものだが、移住促進や結婚支援のほかに、所得の向上が欠かせないと思う。</p>	<p>この10年の市民所得は向上しており、7次総でも市民所得向上にさらに力を入れていく。産業であれば、生産力向上はもちろんだが、付加価値を高める取組みを支援していくこととしている。</p>
<p>尾去沢地区の避難場所が一律で尾去沢市民センターになっているが、地区によっては小学校などのほうが良いのではないかと思う。</p>	<p>災害が起きたとき、いち早く開設するのは第1避難所だが、速やかに開設の体制を整えられる所でなければならないので、学校は設定していない。しかし、災害の種類や規模によっては学校を利用する方が良いケースもあると思うので柔軟に対応していきたい。</p>

<p>一定の人口が集中して、商業や行政機能が集約されているところが中心市街地だと思うが、鹿角市に当てはめると、行政機能の位置や商店街の状況を考えると、中心市街地と呼べるところはないのではないか。</p>	<p>文化や商業、市の玄関口としての花輪駅前など、まち全体に欠かせない機能を有する地域を中心市街地とし、区域は、市で策定した中心市街地活性化プランにおいて、北はコモッセ、南はあんたらあまで、商店街や鹿角花輪駅を含めた約75haの範囲としている。</p> <p>人口減少下において、まちの機能を発揮していくためには、中心市街地の人口密度を高めることが重要だと考えている。人が少ないことに加え、分散が進むと産業や商業の機能が衰退してしまうので、中心市街地のまちの機能を高め、市民全体でまちを使ってもらうことで、市の持続性につなげていくことを7次総では明確に位置づけしている。</p>
<p>小中学校の統合も進んだが、数年後には高校も統合により市内1校となる。人材育成という観点からも、市が密接に関わっていく必要があると思う。学力の低下も懸念される。</p>	<p>地元の子どもたちが鹿角の高校を目指し、また、他市町村からの進学者が増えていくためにも、鹿角らしさを出し、統合する高校が地域の特色ある学校となるよう、市としても積極的に関わっていく。</p>
<p>人口が減る中で、地域や自治会の区域がこのままでよいのか不安がある。尾去沢地区の小中学校も児童生徒数が減っており、やりたい部活動がないからという理由で学区外に通学するケースも見られる。</p>	<p>区域が変わると、地域の特色が失われてしまうのではないかと懸念している。区域や自治会の枠組みを変えなくても、課題に対して協力できる場所とは協力し合い、柔軟な対応ができればと考えている。</p> <p>学校統廃合は一段落ついたが、今後も児童生徒数が減少する中で、学校の存廃を人数だけで判断していいのか等、地域の方のご意見も伺いながら考えていくこととしており、令和3年度から10年間の学校教育振興計画を策定している。計画期間の後期では、今後の人口減少や少子化に対応した学校のあり方について、地域の方からご意見を伺う機会があると思う。</p>
<p>アルパスや総合運動公園が大会で利用されているが、他市町村の人からも好評のようなので、今後もっと機能を充実させ、有効活用すれば集客力アップにつながるのではな</p>	<p>市外から鹿角のスポーツ環境を目的に訪れる人を継続的に獲得するために、施設環境を整備するのは必要なことだと考えている。</p> <p>そのため、現在の施設機能を適切に維持し</p>

いか。	ていく。
住宅に関する施策として、市営住宅を整備するのではなく、民間の賃貸物件に対する家賃補助などにシフトしたほうがよい。	新たな毛馬内住宅の整備は、既存の3地区の公営住宅を必要な規模に集約したもので、一定の住宅セーフティーネットは必要だと考えている。この後の前期計画期間での公営住宅整備の計画はない。
予算規模も縮小していこうし、健全な財政状況を保つために、市債の残高を減らしていかなければならないと思う。	償還は令和6年度がピークとなる見込みである。鹿角市はプライマリーバランスを保っている。
移住対策に力を入れているが、日本全体で人口が減る中では、市の人口減少の根本的な解消にはならない。自然増に力を入れてほしい。	日本全体のことに配慮するのは国の役割であり、自治体間競争の中で、鹿角市が持続可能なまちであるためには、転入者の確保は取り組んでいくべきものと考えている。 自然増対策は、もちろん力を入れていくが、若い世代が夢を求めて市外に転出した後、帰りたと思った時に安心してUターンできるような支援をしていきたい。
地域に空き家が増えており、農作物に被害を及ぼすクマやイノシシもすぐ近くで確認されている。人が増える可能性もないと思う。市内でもそういう地域が増えていると思うが、空き家の解体について、半強制的な強い指導をできないものかと思う。	まずは空き家をそのままにさせない取組みとして、空き家バンクなど、物件の利活用促進を図っている。残念ながら空き家となり、周囲に危険を及ぼすような場合は、所有者への指導や解体費の一部補助をしている。 個人の財産であるため強制的な対応はできないが、空き家等の適正管理に関する条例を定め、助言や指導、勧告はできることにはなっている。所有者の情報を把握し、粘り強く危険空き家対策を講じていく。
花輪線はいつまで存続するか、などの話は出ているか。	そのような話は出ていない。通学にも利用されており、重要な交通インフラと捉えている。
若い世代がこのような住民説明会に興味を持つような広報やSNSなどでの周知を検討してもらいたい。	市の取組みに興味を持ってもらえるような工夫をしていきたい。

<p>(書面提出)</p> <p>若い世代が参加しやすい時間帯に説明会を開催してほしい。</p>	<p>市民の様々なライフスタイルに対応するため、コモッセは日曜日の午前と午後の2回開催、他地区は平日夜間の開催とし、居住地域に限らず、どこの説明会でも自由に参加できとしている。</p>
<p>(書面提出)</p> <p>昨年のインカレ開催時、学生が都合のよい時間のバスの運行がなく困っていたので、大会開催時の交通アクセスの利便性を図れないか。</p>	<p>インカレ出場選手の交通手段は、原則、自己手配となっているため、タクシーやレンタカーの利用を周知している。</p> <p>なお、国体開催時はシャトルバスを運行している。</p>

<八幡平地区>

日 時：令和3年3月17日 18時30分～

場 所：八幡平市民センター

○主な意見

意見・質疑等	応答
<p>鹿角にある産業と、それに求められる人材を鹿角市全体で育てられないかなと思う。どのような職業があるかを知らずに、子どもの職業観が自由だと、鹿角にはない職業を求めて、鹿角に戻らないのではないか。人生観や職業観など、ある程度道筋をつけることも必要ではないか。</p>	<p>教育では、学力だけではなく、生きる力を身に付けることを重視している。将来に向かって確かな実力をつけるということで、ICT教育や外国語教育など特長のある教育にも力を入れていかなければならない。職業観については、ふるさとキャリア教育などの取組みで地域の企業と協力している。子どもを地元に残り付けるのではなく、基礎学力を身に付け、未来に向かって自分がやりたいことに挑戦できるように力を伸ばし、一度は鹿角を離れたとしても、成長した姿でふるさとに戻って鹿角を支えたいと思ってもらえるような愛着心の醸成も必要と考えている。</p>

<p>災害が起きたとき、中核病院に通院している人のカルテは探しやすいようだが、自分で投薬管理している人の情報が抜け落ちるのではないかと。また、中核病院と個人病院で、カルテの共有ができるようなシステムが必要ではないかと思う。</p>	<p>医療機関同士の情報共有は、市内のみならず、全国的な課題となっている。現在、国が研究会を設け、通常時に加え救急や災害時であっても、より適切で迅速な対応を受けることが可能になる仕組みづくりについて検討を重ねているため、市の役割を確認し、対応していく。</p>
<p>スポーツ大会を開催しているが、宿泊先が少なく、県外にまで流れているようなので、宿泊先の確保ができないか。</p>	<p>宿泊先のキャパシティーは十分だと認識している。他県との合同開催の大会で、競技場が分散した時の話ではないかと思う。</p>
<p>まちなかオフィスに入居する事業所の撤退というニュースがあったが、そもそもまちなかオフィスの構想が、まちに賑わいをもたらすものなのか。</p>	<p>大型空き店舗を、まちなかへの事業所集積に活用することで、新たな雇用の創出や、産業人材をはじめとする一定規模の人が滞留することになり、まちなかの賑わいに寄与するものと考えている。現在、新たな事業所の誘致に向けて取組みを進めており、まちの賑わい創出に引き続き努めていく。</p>
<p>声良鶏の保存が伸び悩んでいるようなので、対策をしてほしい。下川原トゲウオ（イバラトミヨ）について、水質管理や周囲の環境整備にもっと力を入れてやってほしい。</p>	<p>声良鶏の保存に関しては、保存会の活動も支援していくが、生活様式も変わってきており、朝の鳴き声や臭気など、住宅地での飼育は難しいようである。孵化したヒナを無償で提供する取組みをしている。</p> <p>トゲウオについては、米代川源流自然の会と連携した水質保全活動や自治会の環境整備活動に力を入れていく。</p>
<p>説明会にもっと人が集まるように、周知を工夫したほうがよい。</p>	<p>普段の市政に対する関心の低さも根底にあると思うので、今回の説明会に限らず、いろいろな場で説明する機会を設けたい。</p>
<p>人口が少なくなれば、どんなことが起こるのかが見えているか。例えば、耕作放棄地や山の荒廃の影響などが懸念される。自治会でやろうとなっても、森林計画を立てないといけなくて、もし不在地主がいた場合は、その部分に手をかけられないという問題が出てくると思う。</p>	<p>人が少なくなれば、農地でも山でも、手をかけられる人が少なくなる。集落営農の取組みがあるが、これまでは山の管理の取組みが手薄であったため、国が森林経営管理法を定め、市が森林所有者の意向調査をしている。市が仲介役となって森林所有者と林業経営者をつなぎ、どうしても経営困難な山は市が管理する仕組みである。林業事業者を増やす事業も実施し、強化していきたい。</p>

	<p>11月に市の人口ビジョンを作成したが、農業者従事者の高齢化が顕著である。労働力軽減のための機械導入や、農業経営体の強化、通年での労働力確保に向けた組織化など、真っ先に取り組んでいかなければならない。製造業に関しては、40代までが約6割を占め、飲食業は40代までが約4割で、年齢構成にバラつきがあるので、産業別の年齢構成も見ながら対策を進めていきたい。</p>
--	--

<十和田地区>

日 時：令和3年3月24日 18時30分～

場 所：十和田市民センター

○主な意見

意見・質疑等	応答
<p>これまでの他地区の住民説明会の参加状況はどうか。市民に関心がないことに問題があると思う。市が立てた計画は市の職員がちゃんと考えているからという安心感、どうせ聞いてもどうしようもないからという気持ちの2つの理由があると思う。</p>	<p>尾去沢地区での説明会では4人、八幡平地区では5人の参加であった。出前講座などでも説明の機会を設けたい。市がどのようなことをやっているのか、どのように進めて行くのかを共有し、話し合いながら、理解していただけるように今後も説明していきたい。</p>
<p>かづのパワーの経営について、仕組みがよく分からない。市の電力供給力は200%を超えると聞いたことがある。クリーンエネルギーにも注目が集まっているので、例えば地熱をもっと活用して、市民に安く提供できるとなれば、それが魅力で、鹿角に住みたいという人もいると思う。</p>	<p>鹿角市は、風力や地熱などの電力自給率が380%以上であり、全国の都市の中でも1位であった。そのエネルギーを有効活用して、市民に還元するという方向性で、かづのパワーの設立に至った。国のエネルギービジョンを基に、採算性も考慮して動き出したのだが、このような状況になった一番の原因は、やはり新型コロナウイルス感染症拡大で、想定を大幅に上回るほど電力需要が高まったこと、火力発電の燃料の液化天然ガスの輸入が滞ったことである。コロナ収束に向け</p>

	<p>た動きを見据え、どのように経済を回復させていくかという局面になっているので、市としては、リスクを再度見直し、かづのパワーを再生させる方向性で検討している。</p> <p>市場価格の動向を的確に捉えられなかったのは真摯に反省したい。赤字回避に向け仕組みを再考するため、市が支援する方向としているが、多額の税金投入することになり、市民の皆さまにお詫びしなければならない。鹿角市のエネルギー自給率は高いが、市内発電事業者は売り先が既に決っているため、まずはかづのパワーが電気を調達することから始めなければならないが、民間事業者の水力発電の電気を調達できる目処がたった。かづのパワーは、市内で生産された電気を買付けるところまでは良かったが、地元の電気を買う際、必ず市場価格と連動する制度であったのが問題であった。自分たちの電気を自分たちで使うのは、単なる転売とは異なり、国会でも議論され、制度設計の見直しもしているため、それも踏まえて再度検討したい。</p>
<p>交通事故の防止や防犯については、地域の防犯協会や交通安全協会を活用して、市であまりお金をかけなくても良いような仕組みづくりをして進めて欲しい。会員が少なくなり、思うような活動がしづらいということもあるので、動きやすくなるような支援をしてもらえれば良いと思う。</p>	<p>7次総では、市と市民や民間団体、企業のそれぞれの役割を明確にし、一丸となって取り組みたい。団体の自走力を高める支援をしていきたい。</p>
<p>説明会の開催について、自治会やサークルなどに参加依頼の文書を出して呼びかければ良いのではないかと。10年間の計画なので、途中経過も知らせてもらえれば良い。</p>	<p>総合計画については、5月の広報配付と合わせ、計画の概要版を全戸配付する。計画を進めるにあたっては、成果指標を定め、具体的な事業は3年間の実施計画を作っているが、これは毎年見直すもので、行政評価という制度の中で行政評価市民会議を開催し、計画の進捗状況などに対し、市民委員の方からご意見をいただきながら進めている。</p>

<p>人口減少で一番の問題が、女性の流出だと思うが、かといって、女性が地元に残っても職場が豊富にあるわけではないので、これを解決しないとどうにもならないような気がする。</p>	<p>女性ももちろんだが、子どもを産んで育てる親世代の人口が少ない。地元にとどまりなさいとは言えないので、一度は市外に出て、スキルを身につけて、将来的には鹿角に戻り、ふるさとに貢献したいという人を増やすのが鍵になると考えている。そのために学生時代から職業を知ってもらい、地元へ愛着を持ってもらうような教育に力を入れている。今後も基礎的な学力だけではなく、ふるさとキャリア教育などに力を入れていく。</p> <p>また、働く場の確保として、暮らしを支えるための生業を守り、鹿角の産業振興に向けた支援も講じる。</p>
<p>コロナ禍以前の話であるが、自分の所得を考えると、子どもに地元に残れと言えないという話を聞く。経済界が考えていかなければならないことだが、人口が減れば市が成り立たなくなる可能性もあるので、地域に残ってもらうにはどうすればいいか考えていかなければならないと思う。</p>	<p>企業にも頑張ってもらうのはもちろんだが、市としては、鹿角の企業や地元で頑張っている人たちの情報を市外の若者世代にもっと届けていきたい。</p> <p>市民所得の向上のためにも、地元の企業に稼ぐ力をつけてもらい、給与を上げていくような方向性としたい。最近では、人手不足の影響なのか、企業利益が徐々に雇用者報酬に回っている部分が増えているようである。あとは、給与以外に、ふるさとをどのように評価してもらえるかというところで、例えば、女性であれば周囲に抑制されずに自分の力を発揮できるとか、面白みや魅力を感じられる地元にすることが大切と考えている。若い人がチャレンジして、外に出ていきたいと思うのは良いことなので、その後、自分の人生を見つめ直したときに鹿角での生活を想像できるようなサポートをしていきたい。テレワークがもっと進めば、都会での仕事を続けながら、鹿角に住むというケースも増えるのではないかと思う。</p>
<p>他市から移住して4年くらいになるが、このような計画を立てたのだから、地域の代表者を集めて周知するとか、もっとアピールし</p>	<p>説明会については、メール配信システムを利用し、広く市民に呼びかけている。こちらが一方的に日時を指定し、半ば強制的に参集</p>

<p>なければもったいないと思う。地元の会合などに参加しても若い人の参加がない。広報などを利用して周知すればいいのではないか。</p>	<p>させるのは負担になるという思いもあり、説明会はこのような形を取ったが、今後出前講座などで対応していきたい。</p> <p>自治会長会議でも説明する機会がある。計画の概要版を、5月号広報と合わせて全戸配付する。</p>
<p>働く場があっても、地域に魅力がないと人は来ない。移住者対策もしているが、長所だけでなく、短所も合わせて説明するべきだと思う。</p>	<p>移住に向けた体験ツアーなどを通して、鹿角の良いところはもちろん、短所についても理解してもらえと思っている。そういった中で、鹿角での暮らしに魅力を感じてもらい、多くの方が移住している。</p>
<p>6次総でやり残した大きな取組みなどはあるか。</p>	<p>毎年200人の出生数を目標にしていたが、到達できなかった。以前アンケート調査した結果では、第2子以降も産みたいという希望を持つ方が多くいたので、それを叶えられるような支援をしたい。</p> <p>また、移住者数だけではなく、年間転入者数が目標を下回った。7次総でも引き続き注力する。</p>
<p>かづの厚生病院に産婦人科は戻るのか。</p>	<p>非常に難しい状況であるが、市民団体と連携しながら引き続き活動を行うとともに、産婦人科に限らず、地域に不足している診療科目の医師確保に努める。</p>
<p>大館まで通院するのは大変であるという話を聞くので、安心して産めるような環境を整えるのは切実だと思う。</p>	<p>大館までの通院支援や大館市立病院との情報共有などを密にし、安全な診療体制を確保しているが、妊婦のニーズを捉えながら、必要な支援は行っていきたい。</p>
<p>鹿角市は災害が少なく、生活しやすい環境があると思うので、そこを発信していければ良いのではないか。</p>	<p>災害の少なさは我々も認識している。それも含め、北東北3県の真ん中に位置する優位性も発信していきたい。</p> <p>自然災害はいつ起こるか分からないので、今まで、たまたま大きな被害にならなかったという考え方もできる。災害に強い地域づくり、対応力の強化を進めたい。</p>
<p>大湯のストーンサークルも世界遺産登録を目指しているが、登録されてから受け入れ体勢を考えるのでは遅い。文化遺産と観光は</p>	<p>6次総後期の後半からは、文化と観光を融合させた「ヘリテージツーリズム」に取り組んでいる。文化の保存継承をしながら、価値</p>

<p>別であるという考えが昔からあったようだが、他市のように文化遺産をもっと観光に利用した方が良い。十和田八幡平も、せっかくの資源を生かし切れていないもどかしさを感じる。</p>	<p>を世界的レベルまで高め、誘客につなげることに一体的に取り組んでいる。その一つが、あんとらあと祭り展示館の改修、大湯ストーンサークルの環境整備である。それに合わせて、ガイド等の人材育成にも力を入れたい。</p> <p>また、7次総では、地域DMOが世界遺産と観光、文化団体をつなぐパイプ役となることを目指しており、市もそれを支援していく。</p>
<p>32の取組方針があり、盛りだくさんだが、この中で絶対やるものや目玉になるものがあっても良いのではないか。民間ができるものは民間にやってもらおうというものがあっても良い。</p>	<p>総合計画というのは、市の全般についての計画となる。一部のみについて特化する性格のものではないが、32の取組方針の上の階層に、8つの戦略を掲げ、基本戦略と経営戦略で力点を整理している。特に経営戦略については、民間活力がカギになるものと考えているため、まちづくりへの参加とご協力をお願いしたい。</p>
<p>十和田図書館の更新について、地域の文化施設を守ることや十和田市民センターも老朽化が進んでいるので、集約させるのは良いと思う。大湯地区の体育館はどうしていくのか。施設があっても活用しなければならないとは思いますが、環境を整えて市民が集えるようにするのは大切だと思う。</p>	<p>大湯地区市民センターは、今後10年は存続させる予定であるが、10年後も引き続きあの規模の体育館が大湯地区に必要なかどうかを検討し、公共施設等総合管理計画の中で示していく。</p>
<p>公共事業で道路が整備され、通行量が増え、鹿角を通過されてしまうとどうにもならない。道路ができれば来てくれるという待ちの姿勢になってしまっていたと思う。鹿角は観光地ではあるが、観光協会などで、どのように誘客するかという取組みが弱かったように感じる。</p>	<p>例えば、これまでの道の駅かづのでは、大手の旅行代理店のツアーの行程に組み込まんでもらい、立ち寄ってもらう通過型観光が多かったのだが、地域DMOで着地型旅行商品を造成し、売り出すことができるようになった。鹿角が旅の目的地となり、市内各地を周遊してもらえるように取り組んでいく。</p>
<p>花輪地区を中心に施設やサービスがあり、そのほかの周辺地域へのフォローがないように感じる。生活排水については、市全域を対象としているのか。</p>	<p>市全域が対象であるが、下水道はエリアが絞られる。全域に広げてしまうと、利用料金に反映させざるを得ないため、下水道エリア以外では浄化槽整備によって対応している。</p> <p>生活環境を整えるのは全域に関わるが、それぞれの地域によって手法が異なる。生活バ</p>

	<p>ス路線に関しては、全域をカバーすることは困難なため、タクシーを利用した地域乗り合い交通を導入するなど、手法は違えども利便性を向上させるような取組みを進める。コモッセやまちなかオフィスなど、市に一つあればいいものを、各地区に整備することはできないが、花輪だけ良くなればいいという考えではない。</p>
<p>バス停までの距離があり、高齢者も自分の車で移動しており、運転免許返納が進まない。</p>	<p>免許返納後も外出しやすい環境とするため、秋田県警察では「運転免許返納高齢者割引タクシー制度」を実施しており、65歳以上の運転免許を返納した方は、県内すべてのタクシーで乗車運賃の1割引を受けられる。市のバス運賃助成もあるので、合わせて利用を促したい。</p>
<p>たんぼこまち号は毛馬内を走っているのか。花輪だけなのか。移住者も車を運転できる人だけではないと思うので、不便を感じる。</p>	<p>花輪地区の循環バスである。集落から幹線につなげるルートを作ればいいという問題でもない。乗り換え利用してもらえそうな路線が作れるかが課題である。</p>
<p>人口が減り、当然財政も逼迫してくる。そのようなリスクについて、マンガなど子どもでも理解しやすいような方法で知らせたい。</p>	<p>学習の一つの教材にもなり得ると思うので、より分かりやすい説明や周知の仕方について検討していきたい。</p>
<p>SNS を利用した情報発信が多くなると思うが、市のほかに議員など情報発信すべき人たちが積極的に取り入れて、SNS の効果的な運用が広がればいいと思う。</p>	<p>かつの未来会議でも SNS を活用した情報発信の必要性についての意見が多く見られた。効果的な情報発信のため、SNS も積極的に活用していく。</p>
<p>(書面提出)</p> <p>取組方針21に関して、中高生に対してのアプローチとして、学校以外で経営学などに触れる環境があると、鹿角市で起業したいと考える若い世代が増えるのではないかと。学生のうちに社会やお金の流れの仕組みがわかると、将来設計の制度も高まり、現実的な行動を起こしやすくなると思う。</p>	<p>今年度から、企業や地域住民が連携し、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える「地域学校協働活動」の取組みがスタートするため、経営や金融に関するものも含めた幅広い分野の学びの場の提供が可能になると考えている。</p>

<花輪地区（午前の部）>

日 時：令和3年4月11日 9時30分～

場 所：コモッセ 研修室

○主な意見

意見・質疑等	応答
<p>これまでの第6次総合計画での反省点は何か。また、それを今回の第7次総合計画にどのように生かしているのか。</p>	<p>6次総では、産業力強化、子育て支援の充実などに力を入れてきた。雇用の確保においては目標を達成している。一方で、産婦人科医などの医師確保では課題を残している。</p>
	<p>7次総では、産業の高付加価値化による所得向上を目指す。また、医療分野は元気で健やかな暮らしや暮らしの安全・安心など幅広い分野に関わるので、開業医支援などにも引き続き力を入れる。子育て支援の充実では、6次総において県内でもトップクラスの支援策を講じてきたが、現在は県内各市町村の支援状況が横並びになってきているので、地域の団体と協力し、市民に寄り添った支援を継続していく。観光分野は、6次総でも力を入れてきたが、今後も国内のみならず世界に認められる観光地を目指し取り組む。</p>
	<p>第6次総合計画は令和2年度が最終年度であったため、これから詳しく検証する。</p> <p>6次総では、人口3万人台を確保する目標を掲げており、国勢調査によって、その結果が明らかになるが、厳しい状況と把握している。人口の自然減は、晩婚化と未婚化、若者が少なく高齢者が多い人口構造も大きく影響していると考えている。社会減に関しては、市で把握している移住者が年間50人程になるが、前回の国勢調査の結果に比べ、若い女性の方がUターンする割合が小さくなっているようである。人口構造の</p>

	<p>若返りを図ることが人口減少緩和に寄与すると考えているので、そこに力を入れていきたい。</p> <p>分野別で言うと、6次総では重点プロジェクトを8つ掲げ、その中で、出生数年間200人を目標に掲げていたが、遠く及ばなかった。引き続き7次総で力を入れて取り組みたい。また、転入者の減少傾向が続いているので、関係人口などを含め、鹿角市に興味を持って、住みたいと思ってもらえるような展開を考えていく。</p>
<p>人口減少が進む中で、まちのコンパクト化が必要だという話であったと思うが、例えば水害が起こりやすいところに住む人は基本的には経費が掛からないよう誘導することが必要だと思うが、特に年配の住民は土地への気持ちが強いので、なかなか進まないと思うが、具体的にどのようなインセンティブによって進めるのか。</p>	<p>道路、水道、除雪などのインフラに係る維持管理について、行政の立場としてはコストの視点は持つべきだが、市内のどこで暮らしたいかという希望は、市民の当然の権利である。効率化という、行政の都合だけで誘導することにはならない。例えば、危険な場所や住みづらさを感じている市民が、住まいの建て替えを考えると、まちの機能を利用しやすい場所に新居を構えられるよう、空き家の利活用など、住民の意向を大切にしながら、中心市街地への緩やかな誘導を新たな施策として考えたい。</p> <p>県内の各市町村の中心市街地における新規住宅着工数において、鹿角市だけが増加している。中心市街地の機能を利用したい方は、行政支援がなくても中心市街地への居住につながっている。一方で、集落には、それぞれの文化や行事などがあり、地域への愛着も強い。しかし、まちなかへの住み替えを希望する方に対しては、歩いて暮らすことができる生活環境のメリットを示しながら、7次総で、まちなか居住を支援していく。災害リスクに対しては、急傾斜地対策や、危険区域からの移転などの支援も活用し対応する。</p>

<p>住民の意思を尊重しなければならないと思うが、例えば、集落に1つだけ家が残っていて、危険な崖に面していて、補強するのにいくらかかるか、道路の除雪や水道の維持に年間いくら費用が掛かっているのか、数値化して公開して説得することはどうか。自分が利用することには関心が高いが、そのためにどれくらいのコストがかかるのか、市民の税金を使っているの、具体化することで説得材料の一つになると思う。</p>	<p>情報の提供の仕方としては、まちなかに住むことのメリットを分かりやすく伝えることを優先に考えている。それを理解してもらわないと、結果的にコンパクトなまちづくりにつながらない。</p> <p>一部の地域のみではなく、例えば、市内全域の1日分の除雪費は約500万円であるなど、実情を理解してもらえるような市民への情報提供の仕方は検討していきたい。</p>
<p>例えば、生活維持のためのインフラ整備のコストが多くかかる集落から住まいを移す場合、移転補償として、一時的に金銭補償をしたほうが、長い目で見れば経済的な場合もあると思う。そのような積極的な働きかけは有効なインセンティブになると思う。</p>	<p>居住選択の自由は認められるべき権利であるので、コストを理由にした強制的な性格を持つ住み替え誘導はしないが、中心市街地の空き家物件を利用しやすいよう支援し、利用者のほか、まちにとってもメリットがあることを示していきたい。</p>
<p>取組方針8の高齢期を元気にする介護予防は具体的にどのような取組みか。</p>	<p>高齢者同士の交流を促進し、住み慣れた地域で元気に暮らすことができるよう、会食サービス支援や地域生き生きサロンの運営補助、生活支援サービスや介護予防のシルバーリハビリ体操の普及やフレイルサポーター養成などを行う。</p>
<p>企業誘致の話も出てきたが、今鹿角にある企業も後継者不足や新規採用を見合わせるなど、規模縮小しているように感じる。小さい業者が多くなり、競争力が低下すると思うが、統合などは考えているか。</p>	<p>市が民間の会社の合併を誘導することはない。自然淘汰される事業所もあるだろうが、市場に求められている業種は、市や商工会、金融機関と事業承継に向けたサポートを進めている。機械導入や雇用確保のほか、域内の取引だけでは縮小してしまうので、域外へどう売り出すかについて積極的に支援している。</p>
<p>災害に強いまちという点で、沢水とか井戸水をそのまま飲料水にしている人が多いと思うが、もしも断水になったときは、この井戸を使えますというような取組みはしているのか。</p>	<p>飲料水としての安全性も必要であるため、断水には給水車で対応している。</p>
<p>市内宿泊施設と提携して、災害時の一時滞在地にできるような取組みはあるか。</p>	<p>国土強靱化地域計画を策定し、災害時のリスクを洗い出しているが、帰宅困難者が</p>

	<p>多数発生した場合の宿泊施設との連携も方向性の一つとしているので、将来的には検討を進めたい。</p>
	<p>この春オープンした「感動鹿角パークホテル」では、将来的に自家発電設備も備え、停電時のホテル開放など災害時の協力についても前向きに検討していただいている。</p>
<p>ヘリテージツーリズムは、環状列石がメインになると思うが、今のストーンサークル館は、一度行けばいいかなと思ってしまう。リピーター獲得の工夫はどういうことを考えているか。</p>	<p>スマートフォンでQRコードを読み込むと、最新の情報を得られるような仕組みなど、常に新しい情報を提供できるような体制を検討している。このほか、ガイドの養成やグッズ販売などソフト面の充実も必要と考えている。</p>
<p>ガイドの説明などで、正確性を重視しすぎると退屈なものになってしまうと思うので、楽しませることに重点をおくといいと思う。</p>	<p>学術的なものも必要であるし、加えて、観光資源として人を呼び込む武器にしようとするものなので、楽しめる要素も重視して進めたい。</p>
<p>取組方針8の認知症にやさしいまちづくりはどのような取組みをするのか。</p>	<p>認知症の初期集中支援として、早期診断・早期対応に向け、認知症サポート医の研修や支援チーム員の研修、認知症地域支援推進員の配置や認知症カフェの運営補助等を実施する。また、これまでも認知症サポーターの養成に力を入れており、小学生なども対象に、子どもから大人まで、認知症への理解が深まるよう取り組んでいる。</p>
<p>自治会長と民生委員をやっているが、コミュニティの能力低下を感じる。一人世帯の見守りや訪問はできているが、同居家族がいる場合、体が不自由になったり認知症になったりすると、家族が表に出さない傾向がみられ、把握が難しくなる。プライバシーの問題もあるが、もっと情報共有が進み、地域が開かれた雰囲気にならなければ、やさしいまちづくりにつながらないと思う。</p>	<p>様々なケースがあると思うし、そのような民生委員や自治会からの声も把握している。最初の相談窓口として、行政ができることを家族の気持ちに寄り添った形で対処していきたい。まずは相談していただけるような体制づくりと、その後の民生委員や医師など専門的な人材が支援に加わることができるネットワーク構築を強化していきたい。</p>
<p>結婚支援について、自分の自治会内でも未婚の人がいる。結婚する、しないは個人の自由だが、問題なのは、未婚の人が肩身の狭い</p>	<p>価値観が多様化している。晩婚化は今後も進むと考えられるし、結婚しない選択をする人も多いと思うが、一方では、結婚を</p>

<p>思いをしながら生活していることなのではないかと思う。</p>	<p>望んでいる方には、人口減少対策の一環としてサポートしていきたい。</p> <p>鹿角市で生まれ育って、大人になったとき、市内では結婚が叶わないとにならないようにしなければならない。出会いの場がないという声を多く聞くので、ふるさとでライフプランがしっかり組み立てられるようなまちを目指したい。</p>
<p>先日の報道で、農林水産省が実施している海外輸出産地リストの登録で、鹿角市では1事業所だけのようであったが、具体的支援はどのような考えがあるか。</p>	<p>商工業分野では、産業活力課がジェトロ（日本貿易振興機構）と連携し、事業者からの希望があれば輸出に向けて支援している。課題としては、輸送などコストがかかるため、採算性に見合うだけの商品であるかという課題もあり、事業者が貿易に積極的ではないというのが大きいと感じている。市ではブランドアップに継続的に取り組んでおり、商品の磨き上げや適正な値付けを支援してきた。今後は、地域商社である恋する鹿角カンパニーが、海外に限らずいかにして域外に売り出すか、取組みを進めているが、まずは、事業者のやる気を引き出す支援をしている。</p>
<p>事業者が輸出に積極的でない理由は何か。</p>	<p>輸出先で、全国各地から集まった同種の商品から、自分の商品を選んでもらえるという自信が必要である。また、適正な値付けが課題であり、どうしてもコスト負けするという意識があると思う。</p>
<p>どうやって事業者のやる気を引き出すのか。</p>	<p>人口減少の中で、地域内だけをターゲットにしていたのでは、需要が縮小していくため、事業を継続するためには地域外に売り出すことが必要ということは、6次総の取組みの中で理解を得たものと考えており、今後も継続して働きかけることが必要である。</p> <p>小規模でも高付加価値を生み出す取組みや再エネなど鹿角の地域資源の特長を生かした取組みを広げる必要がある。</p>

<p>取組方針19で「将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合」の目標値が、低いように感じた。そもそも夢を持ってないのはどういことが背景にあるのか。</p>	<p>全国学力状況調査の設問の一つだが、過去の調査結果からみても、決して低い目標値ではない。ふるさとキャリア教育や日本サッカー協会の「夢の教室」などにより、将来の夢が持てるような教育に取り組んでいるが、夢を持ってないのは悲観的な面だけではなく、いろいろな選択肢がある中で、まだ自分で絞り込めていないということもあると思う。</p>
<p>選択肢が多くて選べないというのは問題ではないと思うが、絶望感などで夢がないというケースがある場合、それはなぜなのか。</p>	<p>身近なところに自分が思い描く仕事がないという部分もあるだろうが、今は、ITの進展により、地方と都会の差が縮まってきている面もあるので、鹿角に住んでいても自己実現できる可能性があるかと伝えることが大切だと考えている。</p>
<p>家庭の環境も大きいのではないかとと思うが。家庭環境に対する取組みは。</p>	<p>働き方の多様化や世帯構成の変化もあると思うが、市では、各学校のPTAと連携し、子どもへの接し方などの講習会などを家庭教育講座として開催している。また、放課後や休日は、児童クラブや児童センターでの異学年交流など、居場所づくりによって、学校外での生活支援も実施している。</p> <p>昔は、親が働くそばで子どもが育つ環境が多かったが、今はそういう環境も少なくなっていると思うので、学校だけではなく、地域で子どもを見守れるような取組みを進めていきたい。</p>
<p>市外に出ても、鹿角市に戻ってきたいと思えるまちづくりの具体的な取組みはどのようなものか。若者から40代、50代向けの取組みなのか。</p>	<p>若者世代の希望が叶えられるような新たな産業の創出と雇用の場の確保に力を入れる。若者世代をターゲットにした移住定住の促進によって、人口の社会減少の抑制と人口構造の若返りを目指す。</p>
<p>(書面提出) 高齢者と若者を別もので捉えているイメージがあるが、そのギャップを埋めるための活動はしているか。</p>	<p>(計画のどの部分に対する意見なのか分かりかねるが) 世代間で異なるニーズや課題を踏まえた上で、高齢者と若者それぞれのライフステージに合わせた施策が必要と考えている。</p>

<花輪地区（午後の部）>

日 時：令和3年4月11日 13時00分～

場 所：コモッセ 研修室

○主な意見

意見・質疑等	応答
<p>自主財源が少なく、依存財源に頼っていると思うが、人口減少が進み、税収が大きい影響を受けると考えられる。何か対策があるのか。</p>	<p>外貨獲得として、ふるさと納税や企業版ふるさと納税などの収入によって、市民サービスが停滞しないよう、税収以外の歳入にも力を入れている。</p> <p>第7次総合計画前期計画の事業費については、財政の中期見通しと整合をとっており、担保されている。そのうえで、人口減少が進むと財政的な制約も考えられるため、取組方針29の「効率的な行財政運営を進めます」では、市税の収納率向上と財政健全化の法定指標、将来負担比率や実質公債費率の健全化を維持していく。</p>
<p>今後、市の努力も必要だと思うが、国からの支援ももっと必要になると思う。財政出動が消極的になると地方には厳しいという報道があるが、国のプライマリーバランスの黒字化が進められると、地方の資産が吸い上げられるのではないかと思うので、もっと財政投入すべきだと国に要望などはできないものか。</p>	<p>どの自治体も、財源が不足する部分は地方交付税で賄うが、何も策がない自治体にも一律に分配されている部分を絞るということだと思う。現在は、どの自治体においても、自立して生き残るため、地方創生のまち・ひと・しごと総合戦略という計画を立てている。そのように、きちんと対策を講じている自治体に対しては、国は積極的に財政支援をしている。鹿角市もこの交付金制度を活用している。また、過疎地域自立促進特別措置法に基づいた過疎計画というものを立てて、それに基づいた過疎債という、有利な条件の地方債も活用している。地方と国でしっかりと協議しながら財源も確保して進めている。</p> <p>地方の声を届けるという点では、これまで他市町村と連携しての要望活動や単独での要望を実施しており、今後も機会をとらえて継続していく。</p>

	<p>地方の過疎化と東京一極集中が進んでいるが、日本が豊かになるためには、地方の発展が不可欠である。過疎地域自立促進特別措置法の期限が到来したが、新たな過疎法が制定され、それに基づく新しい過疎計画を策定し、引き続き財源の確保にも取り組んでいく。</p>
<p>人口減少の大きい要因は自然減だと思うが、鹿角は賃金の低さがあり、Uターンを躊躇する人が多いと思う。人が都市部に集中してしまう仕組みになってしまっているのが、賃金格差を埋めていかないと、人口が増えることにはならないと思うので、この施策に取り組んでほしい。事業者への負担になるのではなく、国や市で支援してもらえたらいいと思う。</p>	<p>人口減少は自然減と社会減の2つの要因がある。自然増減では、昭和50年頃、年間約200人プラスであったが、現在では、約350人マイナスである。社会増減も200人くらいのマイナスである。</p> <p>賃金格差は、大きな課題だととらえている。6次総では、産業力の強化に力をいれてきた。鹿角市の一人当たりの市民所得や市内総生産は伸びているのだが、個人が実感できるほどには至っていないと思う。7次総では、農産物や製造業の付加価値を高め、売れる商品を作り、市民所得の向上を目指す。そのための事業所の設備投資などについて支援をしていく。</p> <p>賃金の低さなど処遇改善に対する要望は多い。市が直接企業の賃金に上乘せすることはできないが、地域で生み出される付加価値が高まり、その利益が労働者に還元されることが大切である。儲けが企業と労働者に分配される割合を分析したところ、以前は企業留保の割合が高い傾向が見られたが、最近は改善も見られる。雇用者が処遇の改善を実感できるよう力を入れていく。</p>
<p>説明会というよりは、参加者もお互いに意見を言い合い、話し合えるような形式でもいいのではないかなと思う。</p> <p>八幡平の観光について、新たな構想が作られたようだが、鹿角市側の観光ガイドが少ないと聞いた。盛り上がりがないような気がするし、昔やったことをもう一度やるのか</p>	<p>以前、八幡平中学校の取組みで、生徒を異学年混同のグループに分け、会社に見立てて、会社経営を勉強していた。今年度からは、地域住民が積極的に学校運営に関わる、地域学校協働活動も始まったので、先進事例を市内で広げられれば、未来にはばたく人材の育成という施策に合った取組みになると思う。</p>

<p>という声や、トイレなどの設備が不十分なのに、構想だけが立派なのは、という声もあるので、構想の内容についての説明が不十分なのではないかと感じた。</p> <p>小さい団体でも、積極的に活動しているところがあるので、そのような活発的な団体をサポートしてほしい。フードバンクを立ち上げようとしている知り合いがいるが、PRや周知は市がやってくれたほうが良いように思う。</p> <p>収入の低さは仕方がない部分があると思うが、稼ぎ方を子どもの頃から教えることも必要だと思う。企業に勤めて終わりではなく、自分たちの力でお金を生み出すことができれば、市で頑張らなくても、個人で外貨を稼ぐことができ、みんなが豊かになるのではないか。</p>	<p>団体の支援に対しては、団体が自走できるような支援を進めていきたい。</p> <p>八幡平魅力アップ構想に関して、これまで、岩手県側と比較し鹿角側の取組みが弱いのではないかという声はあった。要因の一つとして、以前は八幡平の事業者団体が一つにまとまり切れなかった部分があるようだが、今回の新たな構想の策定にあたり、一体となって今後の八幡平観光の方向性を打ち出したものと考えている。構想の周知や説明については、今後の参考にさせていただく。</p> <p>お金に関する教育としては、6次総で、小学生向けの起業体験プログラムや空き店舗を利用してお店を開くなどの取組みもしていたので、今後の取組みについても検討していきたい。</p>
<p>昔に比べ、花輪の町中を歩く人も少なくなり、病院すらも閉院するところもあるので、寂しさを感じる。</p>	<p>コモッセや民俗資料館、関善など周遊してもらえるような魅力向上も必要であるし、商業の営業努力も必要だと考えている。連携して賑わいが生まれるように考えていきたい。EC市場の発展から、買い物の形態も変化しているが、市内の事業者もそれに対応できれば、地元で経済が回る。</p>
<p>金融についての教育も大切だが、選挙の投票率も低いので、そのような選挙の知識も身に付けられるような教育もできればいいと思う。</p> <p>観光面で、鹿角の知名度を考えた時に、「かづの」と読めない人が多いような気がするので、平仮名であれば柔らかいイメージなので、改名してはどうかと思う。</p>	<p>成人式では模擬投票を実施しているが、投票年齢が18歳に引き下げられたので、高校の授業の一環で模擬投票など実施している。</p> <p>知名度調査については、年度によって大きなばらつきがある。集中的に全国プロモーションを行うと上昇する傾向が見られる。現在は首都圏に出向いてのプロモーションが難しいが、SNS利用も有効なので、改善の余地はある。「鹿角」という字にも由来や歴史が込められているため、改名は逆にすべきではないと考えているが、「鹿角」の認知度が向上するよう努力していきたい。</p>

	<p>この7次総は、人口が少なくなる中でも、鹿角市で生まれる子どもがいて、我々のふるさとであり続け、住んでいる人たちが幸せを感じられるような、持続性を持った地域を目指したもの。今後も全市民でふるさとを守っていききたい。</p>
--	---